

平成24年度第1回特別支援教育保護者研修会報告

講演概要

「視覚認知～見え方を考える」

北海道立特別支援教育センター

視覚障害教育室長

野戸谷 睦 氏

- 視覚認知という言葉は古くからあるが新しいもので、最近注目が高まってきているものです。
- 学習全体での遅れはなくても、一部において何らかの遅れがあったり、困っているお子さんが話題になったのは、最初アメリカでのこと。
- このアメリカでの話の中に文字がうまく読めない、間違えて書いてしまう等にことが1960年代に話題になる。
- このことを見え方からアプローチをしたグループがあった。そのことが古くといった理由です。
- 最近また大きくクローズアップしてきている。
- 視覚で「見える」とは、視力ではないかと思うが、今回は「見え方」に着目して見ていこうと思います。
- 「格子模様」のスライドを見せ、あたかもそのスライドの中に何かがあるように話すと、「黒い点が見える」と答える参加者がいたが、実は何も見えない。見えている気がするだけである。あるのは、交差しているところに少し丸い円である。近くで見ると黒いものが波打つように見える。視線をずらすとそこにも見える。錯覚を起こらせるものがあるのではないか。この図は1997年に外国の人が発案した図です。
- 眼球運動と明暗を捉える差によっておこるのではないか、いわれているがよくは、わからない。
- 見えているのに何か説明できないことが起きているのかもしれない。
- 情報の収集の中心は目である。

- 視覚認知～目でとらえて、それがどのような状況にあるかというのは、脳の段階で上がっていくという過程を扱っていくもの。

- スライド「公園で歩いている犬」。見えているけれど何かはわからないが、ヒントを出すことでわかってくる。
- これは通常背景の濃いものは後ろに見え、色の明るいものは前に見える特性を利用したもの。

- 見え方には段階性がある。就学前の子に図形を描かせると、丸や四角は描けるけど、三角はちょっと難しい。ひし形になると四角になったり、もっとぐじゃぐじゃになるというように基本的な図形については発達段階がある。
- 認知の発達から見ると、三角からひし形までにはゆっくり発達して獲得してきた。全員がそうである。
- ひし形が書けるようになるのは、6歳台後半、丁度、小学校入学時期である。
- 視力を見る時に2つ指標がある
 - ①ランドル環・・・遠見視力、5メートル先の見え方
黒板に書いている文字が見えるか。
 - ②クマの図・・・近見視力、教科書の文字が見える視力、
40センチ先の文字が見えるか



0,05

- 眼球運動の実態把握には
 - ①追従性眼球運動・・・追っていく運動、顔を動かさずに目だけで追う。
 - ②跳躍性眼球運動・・・目移りする運動、肩幅ぐらいに開いた手にもものを持ち、口頭で指定したものを目だけ見る。

※眼球運動とは、人はものを見る時に、見たいものに焦点を合わせるため眼球の向きを変える6つの筋肉を動かし両目をそろえて見えています。この目をスムーズに動かす運動のことをいう。

- 眼球運動と読字

縦読みを先にする。速く正確にできたが、横読みのとびとびの数字を読むのでは時間、間違いが多くなった。これは、横方向に眼球を動かすことがうまくできていないことを示す。支援策としては、まるで囲む、色を付ける、スリットをつけたものでその部分だけ見せる。
- 形の認知、模写課題

斜め線が書けるか、十字の中心線がとれているか、ひし形は6歳後半で認知できるようになる。アプローチとしては目の動かし方によるアプローチ、見たものが形につながっていないのかな。このことが漢字のうまい形の再生につなが

っていないのかもしれないと思い、目の動かし方の練習を行った。

訓練だと思って、一生懸命にしない。勉強前の準備体操と思って軽い気持ちで行ってほしい。毎日行う必要はない。

形を写す練習を気が向いた時に行う。簡単すぎず、難しすぎず、丁度よいもの。

このようなことを見る時には、見たてが重要になる。

近くの視力は、どうか
目を十分動かしているか

- 目と体のついながりの重要性

目で見ながら体を動かすことの大事さがクローズアップされてきている。
体を動かす図を見せ、同じ動きをさせる。目で見たものを体で出力させる。
目で見たものを脳で処理して体につなげているかを見る。
子どもと遊びながら伸ばしてやりたいところを考えながら取り組む。

- 大きな体の動かし方ができると、細かい体の動かし方もできるようになったり、挑戦したりしようとする。最終的には文字の形を十分取ったり、表現したりにもつながってくる。

- 直接的アプローチだけではなく、遠回りのアプローチでも効果があるかもしれない。漢字を何回も練習してうまくいく子もいれば、そうでない子もいるからできないところを集中して練習する訓練型では定着しない子もいる。

- 紙粘土で漢字をつくることで、眼球の動かし方、目と手の協応、協調運動につながってくる。

- まとめ

視力の状況(特に近見視力)、眼球運動の状況、読字スピードと眼球運動、形の模写、模写課題を通して、眼球運動へのアプローチ、目と手の協応への取り組み、協調運動への取り組みを行う。